

## 年 頭 の ご 挨 拶



公益社団法人  
鹿児島市薬剤師会 会長

谷 口 欣 平

新年、あけましておめでとうございます。

鹿児島市医師会の先生方には、お健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げますとともに、私ども薬剤師会の会員が各面から大変お世話になっていることに、心から感謝とお礼を申し上げます。

昨年は明治維新から150年、大河ドラマ「西郷どん」では西郷隆盛享年51歳までの生涯が描かれ、西郷に始まり西郷で幕を閉じた1年でもございました。改めて、西郷隆盛の生きざまに感銘を受けられたのではないのでしょうか。

反面、震度7の北海道胆振東部地震、平成30年7月豪雨、台風21号の襲来など自然の脅威には戦くばかりで、亡くなられた方々のご冥福と被災者の復興をお祈り申し上げます。

さて、少子・高齢社会を見据えて2025年地域医療構想が、二次医療圏単位で関係団体等において、医療提供体制についての協議が鋭意なされています。

あわせて、高齢者が医療、介護、住まい、予防、生活支援サービスを医師、薬剤師、介護支援専門等の関与により身近な地域で受けることができる「地域包括ケアシステムの整備」も避けて通れません。

その中で私ども薬剤師は、薬物治療だけでなく、発症前（予防・健康の維持増進）からの関わり、ライフステージを通じた関わり、

地域の保健・衛生との関わりなど薬剤師にも薬局にも予防の視点が必須であり、かかりつけ薬局・薬剤師、健康サポート薬局を目指しているところでございます。

県薬剤師会で昨年度開始の薬薬連携「どんどん」事業の「おくすり整理相談バッグ」を活用した入退院時における医療連携、CKD患者に対する薬薬連携、外来化学療法患者の服薬状況等につきましては、市医師会の先生方のご協力が不可欠でございますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

これからはさらに、医療三師会及び薬薬連携並びに地域包括センター等の多職種連携がますます重要となってまいりますので連携をより密にしていきたいと考えているところでございます。

今後とも医療を取り巻く状況は厳しさが続きますが、夜間救急薬局の運営など市医師会の先生方のご指導と連携を図りながらより良い医療を提供してまいります。

終わりに、市医師会の先生方のますますのご健勝、ご活躍をご祈念申し上げ新年の挨拶とさせていただきます。